

厚岸水鳥観察館だより  
べかんべうし  
別寒辺牛

●問い合わせ／水鳥観察館 ☎52-5988



## ■■■■ タンチョウの巣作り

**別** 寒辺牛川河口のタンチョウの巣づくりで事件がありました。

昨年まで水鳥観察館のカメラ小屋前の湿原で繁殖していた、2011年5月生まれの足環標識166番のオスのつがい、今年はやって来ませんでした。冬期に阿寒や鶴居の給餌場などで確認されていないか、関係機関に問い合わせても記録がありません。

そこで昨年の観察日誌を検証したところ、166番オスがつがいで最後に確認されたのは、昨年8月12日。8月26日には166番オスの相方だったと思われるメスが確認されていました。どうやら、8月13日から8月25日の間に166番のオスは何らかの原因で死亡した可能性が高いという結論になりました。

**さ** て今年の春先のことでした。タンチョウ営巣の一等地である166番オスつがいの巣跡をめぐり、新たにこの地を縄張りにしようとするタンチョウが3月下旬から集まり、つがい同士の争いが続きました。つがいの巣は、一般に隣との距離が2<sup>□\*</sup>、面積で1～7平方<sup>□\*</sup>が必要とされています。この広さを確保するのはなかなか大変です。

### 足環標識の正体

足環標識は、標識調査という特に渡り鳥の移動経路などを追跡するための調査研究用の標識です。

タンチョウには、特定NPO法人タンチョウ保護研究グループが一括して標識調査を行っており、毎年捕獲が容易な湿原でタンチョウのヒナの段階で足に標識を付けています。

年によりばらつきがありますが、年十数羽の足に取り付けています。通し番号を付番し、生態の調査研究を行うことによって、タンチョウの行動範囲や寿命が分かっています。

**2** 013年7月7日、浜中町の藻散布沼で生まれ、足環標識が付けられた195番のメスがいるのですが、2015年より別寒辺牛川河口左岸にときどき姿を現すようになり、その時にはつがいとなるオスを見つけていたようです。そしてさらに2年経った昨年5月にヒナ2羽を連れてくるのを確認しています。この195番のメスのつがいは今年もやって来ており、元の166番のオスつがいの巣跡の争奪戦にも参加していました。しかし結局、昨年と同じ河口左岸の湿原で抱卵したようで、オスとメスが交代で姿を現していました。



**と** ころが、4月24日に195番のメスのつがいが、あらためて交尾を始めているのをカメラで確認しました。どうやら1回目の抱卵は失敗した様子です。そして、再び一等地での縄張り争いを始めます。5月8日の午後に元の166番のオスつがいの巣跡付近で営巣しているのを確認しました。元166番のオスつがいの縄張りは、195番のメスつがいが占拠に成功、といったところでしょうか。水鳥観察館が開館して既に20年が経過し、この場所で世代交代するタンチョウのつがいは5組以上になります。興味深いのは、どのつがいも教えてもらったわけでもないのにほぼ同じ場所に巣を作ること。増水時の水位などを考えた結果、本能的にそうするのでしょうか！